

**平成 30 年度 第 1 回 環境基本計画評価検討部会
会議録**

日 時 平成 30 年 9 月 6 日（木） 午後 13 時 30 分～15 時 00 分

場 所 職員会館かもがわ 第一会議室

出席者 小幡部会長，板倉委員，窪田委員，小山委員

欠席者 綾野委員，大久保委員，中野委員

内容

1 開会

- ・ 村中環境企画部長 挨拶

2 議題

- (1) 「京都市環境基本計画 年次報告書 環境レポート（案）～平成 29 年度事業実績～」
について

事務局

- ・ 6 月の環境審議会で御意見を受け修正した点について説明。

小幡部会長

- ・ 環境レポートの公開時期について 10 月に変更する旨よろしいか。

一同

- ・ 異議なし。

○長期的目標 1 について

事務局

- ・ 資料に基づき長期的目標 1 の要点について説明。

小幡部会長

- ・ 長期的目標 1 について御意見を伺いたい。
- ・ 17 ページの図 4.14 のグラフを見ると，環境や環境保全に対する関心度に応じて省エネの取組状況に差があることがよく分かるが，これを踏まえ，関心の低い人に対してどのような施策を行っていくのかなどは，述べられていない。10 ページや 11 ページに掲載されている取組等を通じて関心を高めていくということであると思うが。

○長期的目標 2 について

事務局

- ・ 資料に基づき長期的目標 2 の要点について説明。

小山委員

- ・ 22 ページの図 4. 20 のグラフで、環境や環境保全に対して関心が高い人は「そう感じる」と回答するのではないかと思ったのだが、「そう感じない」と回答している人も一定数いる。空気や河川のきれいさに対して、どう感じるのが適切なのか。また、関心が低い人では「分からない」と回答する人も多いが、京都市として、この結果をどうしていきたいと考えるのか。

小幡部会長

- ・ 客観的指標では、大気汚染や水質汚濁の市環境保全基準を概ね達成しているという結果が出ているが、アンケート調査結果では空気や河川をきれいさについて、「そう感じない」と回答する人もいる。これをどう解釈するかといった御質問かと思う。

事務局

- ・ 地域によって回答に差が出ているというわけでもなく、どういう状況であればきれいと感じられるのかが実際のところ分からない。図 4. 19「空気・河川のきれいさを感じない理由」の結果から考えると、河川の水質よりもごみを見てそう感じているのではないかと思う。環境や環境保全に対して関心のない人の実感度がなぜ低いのかは分からない。

板倉委員

- ・ 出町柳などで河川の調査をしていると、30 年前は非常に汚くてヒルぐらいしかいなかったが、今は水生生物もとても増えている。しかし今の人にはきれいな状態の河川しか知らないのも、台風等による河川の増水の影響で、ごみが河川の中州等に引っかかっているのを見て汚いと言う。今では河川の水は透明なのが当たり前で、客観的な水質測定の結果と一般の人が感じるきれいさの評価は違っている。

小幡部会長

- ・ 何によって空気や河川がきれいと感じているか、というところが様々なのだろう。

板倉委員

- ・ 浄化槽を使用していた時代が変わって、今はし尿が河川に流されておらず、バックテストをしても亜硝酸などは検出限界以下、COD もほぼゼロというぐらいにきれいになっている。生息している昆虫もすごく多様性がある。それを分かってももらえないのはつらいと思う。

小幡部会長

- ・ アンケート調査の回答者の約半数が 50 歳以上だが、それでもこのような結果になるようだ。

板倉委員

- ・ 今では小学生の親世代も、河川が汚かった時代を知らない。

小幡部会長

- ・ どういう人が河川を見て評価しているかによってアンケート調査結果も変わってくる。

小山委員

- ・ 美観の問題は環境とは別問題のように思うが、そうであれば、大気や水質の状況は問題ないと発信していくのがこの環境レポートの役割なのか。この環境レポートが誰に向けて何を発信していくものなのか、というところがはっきりしないように思う。

小幡部会長

- ・ 客観的な測定値と市民の主観という 2 つの事実があって、それをもって今後の方向性をどのように打ち出していくか。そこからどこまで踏み込んで書き込んでいくのか。26 頁のまとめでは、今後の方向性について、SNS の発信など具体的に書かれている。抽象的な表現のままにせざるを得ないところもあるかと思うが、もっと踏み込んで書くかどうか。そもそも、この環境レポートは誰にどう配布していくものなのか。行政の 1 年間の実績をまとめたものなのか、それとも市民への啓発や環境教育などを目的にしたものとするのか。

事務局

- ・ 前回の環境審議会でも、環境の専門的な知識のない市民にはレポートの内容が難しいと感じるので、市民向けに分かりやすくできないかとの御意見をいただいております。環境教育にも使えるようなものとして、別途、環境レポートの概要版の作成を検討している。環境学習施設である「京エコロジーセンター」などで、学習資料として配布できたら良いのではないかと考えている。

小幡部会長

- ・ そういった取組を通じて、環境や環境保全に対する関心の低い層に関心のある層へと向けていきたい、ということか。

事務局

- ・ 環境や環境保全に対する関心のない人は、環境保全の取組を実際に行っていない傾向があるということが明らかになったので、関心のない人に関心を持ってもらうにはどうすれば良いかといった御意見もいただければと思う。

板倉委員

- ・ 大人の意識を変えるのは非常に難しいので、幼児や小学生に重点的に教えるべきだと

思う。小学校での自然観察会の活動を引き受けているが、その中で、生き物の知識が少ない教諭も多いと感じている。子どもの方が生き物への興味、関心が高いので、生物多様性から海洋汚染まで広く教えられると思う。環境や環境保全への関心を広げていくには幼稚園、保育園、小学校から取り組む必要がある。予算の関係で10校も行けないので、市でそういった活動に力を入れて広げていただけると助かる。

小幡部会長

- ・ 環境や環境保全に対する関心を高めるという点について、環境ではやはり最重視してやっていただきたい。子どもを重視するという視点では、環境基本計画策定時に子どもワークショップをして目指す環境像の具体的なイメージを作ったという経緯もあり、これを活かしていければ良いと思う。
- ・ 環境レポートの概要版については、環境学習に来ている人などの意見も聴き、一緒に作っていくと良いものになるのではないかな。

窪田委員

- ・ 調査結果を見ると、環境や環境保全に対して全く関心のない人は、アンケート対象者1,000人のうちわずかなので、その層をどこまで慮るべきかということも考えた方が良くと思う。ただ、施策の方向としては、関心のない人をいかに減らしていくかということがポイントになってくると思う。
- ・ 平成14年頃から教育委員会と連携して、企業でも子どもに対する環境学習に取り組んでいる。環境政策局では、ライフステージに応じた環境教育を進めていくとの方針を示されており、京都商工会議所としてもそういった取組をもっと増やしたいと考えているが、教育委員会の方では、近年、英語教育や総合学習などのテーマが増え、環境を扱う時間がないということで、受け入れてもらえない状況がある。
- ・ 企業においても社員教育として環境教育を大事にしているので、そのような教育が広がるよう、市でも後押ししていただきたい。

事務局

- ・ 京都市では2年前に「京都市環境教育・学習基本指針」を策定しており、環境教育に力を入れていこうとしている。一方で、市議会においても、海外視察等を通じ、環境教育の重要性をよく承知されているところであるので、予算を付けていくうえで、追い風にはなっている。

小幡部会長

- ・ あれもこれもとやるのではなく、やるべきことをもっとシンプルに簡素化して実施していくことが大事だと思う。SDGsを新たな計画に取り入れていくにしても、17の分野全てに取り組んでいくのではなく、環境分野はどうするのかという視点がいる。市の計画もたくさんありすぎる。もっとシンプルにならないか。また、計画を作っただけで、

なかなか実態として進んでいかないというところもある。

○長期的目標 3 について

小幡部会長

- ・ 34 頁のまとめについても、事実としての記載はきっちり書かれているが、今後の方向性に関する記載が抽象的であり、もう少し踏み込んだ記載があっても良いのではないかな。

窪田委員

- ・ 昨年度、ごみ減量のペースが落ちた要因は何か。

事務局

- ・ 断定は困難だが、景気が良くなってきた影響などもあると考えている。
- ・ 平成 27 年に「しまつのこころ条例」が施行され、紙ごみの分別が義務化などを決める等、様々な取組を進め、その周知啓発も強化したこと等で減量が進んできたが、その効果が一巡して落ち着いてきたことも原因の一つではないかと考えている。今後は、環境や環境保全に対する関心の低い層への周知を強化し、分別やリユースに取り組んでいただく必要があると考えている。

小山委員

- ・ 指定ごみ袋やスーパーの買い物袋の有料化の動きなどの影響があるのではないかな。

板倉委員

- ・ エコロジーとエコノミーの関連は確かにある。ごみを出すのが有料になれば、ごみになるようなものを極力持ち帰らなくなる。
- ・ 小さな町ならではの取組だと思うが、水俣市ではごみを 22 分類し、大きな減量効果が出ている。また、ごみとして出されてものを必要な人が持ち帰ったり、小中学生がお年寄りのところに新聞紙などを引き取りに行くなど、ごみの分類を通じてコミュニティが作り上げられている。今後、京都市でごみを減量するには、分別を進めていく必要があると思うが、ここまでの分別は、コストも労力もかかるため、大都市では実施することが難しい。

○長期的目標 4 について

小幡部会長

- ・ 環境や環境保全に対して関心のない層は、環境学習に参加したくないという回答が多くなっている。このあたりについてどう考えるか、検討する必要がある。参加したくない人に関心を持ってもらうにはどうすればよいか。

事務局

- ・ 1 割弱の無関心層は、政治やボランティア活動に対しても同様に存在する。一定、致し方ない部分もあるのではないかという考え方もある。

・

小幡部会長

- ・ 神戸や大阪などの他都市と、市民の環境や環境保全に対する関心の高さを比較してみると相対的な状況が分かるのではないか。

事務局

- ・ 国や他の自治体では、環境基本計画の進行管理で、本市のような市民アンケートを実施していないため、比較は難しい。

小幡部会長

- ・ そういう意味では、京都市は、独自性のある評価を行っていると言える。

小山委員

- ・ この環境レポートは、京都市の取組や特徴についての良いところを強調している感じではなく、淡々と事実が書かれている印象で、京都市として何を訴えたいのかが見えないう。例えば、環境や環境保全に対する関心のない人の数は多くないということを書きたければ、グラフにN数を記すなどの方法が考えられる。環境や環境保全に対する関心の分析について、関心のある人や関心のない人の層のうち、どういった層の人をどう動かしていきたいということは記載しないのか。

事務局

- ・ 年次報告という性格上、淡々と報告している部分はあるが、訴えないといけないところはもっと踏み込んで記載していけば良いと考えている。

小山委員

- ・ 環境や環境保全に対する関心がない市民にどのように関心を持ってもらうのが課題であるなどといったことを結論として記載してはどうか。

小幡部会長

- ・ レポートの構成上、目標 1～4 をまとめて総括する項目がない。総合的なまとめを行う項目を追加して書き込むことも考えられる。

事務局

- ・ 本レポートは、環境基本計画に基づく年次報告であるので、啓発冊子とは趣旨が異なる。

市民に何を訴えるのかということは、環境レポートの概要版などで記載するというこ
とで整理することは可能と考える。また、各基本施策のまとめの部分で、今後の方向性
についての記載を深めることはできる。

小幡部会長

- ・ 環境レポートの概要版については、ターゲットごとに啓発の媒体を作るということでも良いと思う。今年は子ども向け、など少しずつならできないのではないかな。

窪田委員

- ・ 環境レポートで、どこまで踏み込んだ評価をするのか。元になる環境基本計画があり、計画を推進する審議会等にどのようにフィードバックするのかということにも関わってくる。

小幡部会長

- ・ 環境レポートについて、大きな修正はないということで良いかな。

一同

- ・ 異議なし。

小幡部会長

- ・ 細かな修正や本日欠席された委員の御意見等については、個別に対応し部会長の確認を経て10月に公開するという流れで良いかな。

一同

- ・ 異議なし。

3 その他

今後のスケジュール

事務局

- ・ 次回の評価検討部会は来年の2～3月を予定している。
- ・ 了